



公共施設附帯駐車場の有料化について 障がいのある方への支援について

無党派 吉田 みな子

問 公共施設附帯駐車場の有料化についてのパブリックコメント（パブコメ）に過去最多の600人から意見があり、半数以上の363名が無料を継続すべきと表明しています。大多数が反対意見や懸念の意見で、有料化に反対する7622筆の署名も提出されています。しかし、市はパブコメ締め切り直後に、有料化対象施設の指定管理者の事業者募集を行っています。パブコメの集約前に駐車場有料化の提案を受けることは、市民の意見を聞かないことと同じです。駐車場有料化に関する募集内容とパブコメの集約前に駐車場有料化を前提に公募を行った理由を伺います。

答（市長） 指定管理者更新の公募の中で、条例や方針が決定された場合に有料化が実施できるよう、具体的な駐車場運営の提案を併せて募集しています。公募では、パブコメで示した料金想定を基に事業提案をお願いしていて、今後、条例や方針が決定した後に、その決定した内容を基に事業者と協議を進めてまいります。

問 脳性まひで重度の障がいのあるご家族を自宅で支えられている方から、「海老名市では紙おむつの支給がなく困っています」と切実な声が寄せられました。自宅で暮らす重度障がいのある方への紙おむつ給付の支援拡充についてのご見解を伺います。

答（保健福祉部長） 紙おむつの支給は、排せつの意思表示が困難で自力でトイレに行くことができないなどの条件を満たす場合には、脳原性運動機能障がい（脳性まひなど）も対象となります。支援拡充は、支給決定を行うケースワーカーが障がいの当事者に寄り添った支援ができるよう努めてまいります。

その他の質問

- ・ 自宅療養者に対する支援と「コロナ対応における職員体制について」
- ・ 「コロナ禍における生活支援について」



今後の学校運営について

政進会 志野 誠也

問 今後、修学旅行などの学校行事の実施について、どのように考え、決定されていくのか伺います。

答（教育部参事） 学校行事は感染対策をして、できるかぎりの実施を目指しています。修学旅行など宿泊を伴うものは、学校と教育委員会とで感染状況などを踏まえて実施の可否など、2回にわたり協議し決定しています。もし実施できない場合は、子どもたちや保護者に十分に説明し、何らかの代替措置を検討したいと考えています。

問 1人1台端末による遠隔授業について伺います。

答（教育部参事） 2学期に入って小中学校ともに、計画的なタブレット端末の家庭への持ち帰りはじめ、さまざまな試行を行っております。例えば、時間を決めてのオンライン会議システム接続、課題などの配布・提出やオンライン授業の試行などの取り組みが各校で進められています。

問 家族のコロナ感染などによる出席停止やコロナ不安によって、一定期間学校に来られない子どもたちの学びの保障としてのICT活用について伺います。

答（教育部参事） 小中学校ともにタブレット端末の家庭への持ち帰りについて計画的に試行しているため、今後、個々に対応できると認識しています。

問 総括的に教育長の考えを伺います。

答（教育長） 学校のICTの目指すべき方向性としては、ハイブリット型の学校教育活動になるべきだと思っています。学校に行って授業を直接受けるか、タブレットによってオンラインで授業を受けるかが選択できる学校教育です。子どもたちがどこにいてもどんな状況でも、学校教育を自分で享受できるようなシステムを年度内には目指したいと考えております。

その他の質問

- ・ 公共施設附帯駐車場の有料化導入について



医療的ケア児への対応について

公明党 戸澤 幸雄

問 今年6月11日に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が制定され、9月18日に施行されることで、国、地方公共団体、保育所の設置者、学校それぞれに対して明確な責務が規定されます。特に地方公共団体は国とともに、連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、医療的ケア児およびその家族に対する支援に係る施策を実施する責務を有すると明記されていますが、今後の取り組みについて、市の考えを伺います。

答（市長） 医療的ケア児が在宅で生活するためには、本人の心身の状況に応じた適切な支援のほか、家族への支援が重要な課題となっています。本市としても保健、医療、教育、福祉などが連携した協議の場や、医療的ケア児の成長に応じた支援の充実に向けて取り組んでまいります。

答（保健福祉部長） 令和3年度から令和5年度までを計画期間とする「海老名市障がい者福祉計画（第6期）」において、医療的ケア児支援事業を掲げて、推進することとしています。医療的ケア児の成長に応じた切れ目のない支援に向けて関係機関の連携を図るため、「海老名市自立支援協議会」の部会の中で、各機関の医療的ケア児の支援状況について情報交換や協議を進めているところです。

今後についても、医療機関にも参加を依頼するなどしながら、関係機関の連携と協議の場の充実を図ってまいります。また、医療的ケア児やその家族が、地域で安心して暮らすため、総合的な相談や支援を実施する「医療的ケア児等コーディネーター」の将来的な配置について、研究をしてまいります。

その他の質問

- ・ 海老名市の将来像について

